

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：23501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04563

研究課題名（和文）「恵那の教育」の実践構造に関する総合的研究

研究課題名（英文）Research on the practical structure of "Education in Ena"

研究代表者

佐藤 隆 (SATO, TAKASHI)

都留文科大学・教養学部・教授

研究者番号：70225960

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：第1は、『石田和男教育著作集』の刊行である。これは先行する研究課題のものであるが、本研究において完成を見た。この著作集の読み取りを深めることを通じて、恵那の教師たちの協働の歴史を明らかにすることができた。とりわけ重要なのは、子どもの生活綴方を教師集団が、協働で読み解き、子どもを理解しようとしたことである。この活動が、彼らの教育実践の原動力となった。

第2に、恵那の生活綴方教育と同様に子どもの表現を大切にする世界の教育実践を検討する一環として、フランス・フレネ中等教育実験学校を対象に調査研究を行った。子どもの表現の自由の保障のために教師が集団として子ども理解を共有しようとしている点を確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『石田和男教育著作集』を2017年に刊行したが、各巻において研究代表者、研究分担者、研究協力者がそれぞれ解説論文を執筆し、石田和男と「恵那の教育」の諸特徴をうきぼりにすることができた。とりわけ、教師たちの協働が教育実践を支える基盤として構想されており、その相互浸透性についての研究は教育実践概念を拡張・富裕化させるうえで重要であることを確認した。

これは今日の教員政策が、教師個人の資質・力量に焦点を当てている傾向が強まっているなかで、恵那の教師の集団的な教育実践が教師の、専門性の発達へのつながっていった経験はあらためて検討されるべきであることを提起した。

研究成果の概要（英文）：First, we would like to mention, we finalized to publish "The Anthology of ISHIDA KAZUO Educational Works" Vol1-4. These books lead us to further research for Education in ENA. We found some uniqueness of Education in Ena. Especially, Teachers of Ena region focus on collaboration for their educational practices. They collaborated to read the works of children's life writings. Then they collectively tried to understand life, emotion, wish of children. This style of their research activities promoted to discover professionalism of teacher. Secondly, as part of examining the world's educational practices in the similar way as Ena's life writing education, we conducted a survey at some schools in Finland and France. Especially, we noted Freinet experimental Secondary School in France. In order to guarantee children's freedom of expression, it was confirmed that teachers are trying as a group to share understanding of children while deepening communication.

研究分野：教育実践学

キーワード：生活綴方教育 教師教育 教師の集団性 子ども理解 教育課程

1. 研究開始当初の背景

(1) 岐阜県恵那地域での教育実践が「恵那の教育」とよばれ全国的に認知されるのは1970年代ではあるが、子どもの生活とそこに生まれる表現を重視した生活綴方教育を軸とした教師集団による教育実践は50年代から展開されていた。こうした地域の名を冠する集団的教育実践が長期にわたって展開された事例は、日本の教育実践史上類を見ない。また、80年代以降「子どもの声を聴き取り」生き方を支える新たな生活綴方教育を集団的に模索したことの意義を確認することは、ひとりの教師が特定(担当)の子どもに対して行うものとして語られることの多い教育実践概念の再検討を促すことになる。

1950年初頭、岐阜県恵那では「夜明けの子ら：生活版画と綴方集」が刊行された。この時期の生活綴方教育は、子どもが生活を綴ることをとおして生活現実のもつ社会的な文脈をつかみ、主体的に学ぶことに直結する教育方法として注目された。

1960年代にはいと「科学と教育の結合」の論理によって系統的教科教育が主流になると、恵那でも生活綴方教育は一時的には後退した。しかし、高度経済成長を経た70年前後には、子どもの生活の能動性が失われ、科学的な知識が何のために必要なのかという、生活的文脈の欠落が問われるようになり、子どもの生活や生き方への深い注目を通じて、新たな質を持った生活綴方教育が復興を遂げた。それはまた、恵那の教師たちがその基盤と見なした「地域」を教育実践と教育研究の主要なテーマにせり上げるものでもあった。1970年代半ば以降、日本の教育に「地域にねざす教育」という言葉を定着させていくうえでも、「恵那の教育」の果たした役割は重要であった。

また1980年 - 90年代には顕著となった大きな社会構造の変化のもとで、人々の生活と意識の変化にともない、子どもがありのままに自分の生活を見つめ綴るという行為自体が難しくなる状況のなかで「子どもの声を聴きとる」ことを通じて、新たな生活綴方教育のイメージを喚起した。

* 上記のように、時代と状況のなかで、形を変えながらも探究され続けた生活綴方教育が、特定の個人によって実践されたものではなく、「恵那の教育」として、いわば教師たちの「集団的思考」として展開された事実を歴史的に総括し、そこで発揮された教師の集団性が生活綴方教育の深化にどのような質をもたらせたのかを検証する。これまで「恵那の教育」に関心を寄せた研究は、本研究グループを含め少なくはないが、その多くはその時点での「恵那の教育」の特質と意義を確認するものであり、恵那の教師の集団性を教育実践概念の検討と関わらせて明らかにする試みは、ほとんど見られない。また、これまでの「恵那の教育」に関する諸資料を長く保管してきた恵那教育研究所の収容能力も限界に達しており、これを放置しておくことは貴重な資料の散逸につながる。本研究を通じてそれら資料の整理と再解釈を行う。

(2) 近年諸外国の教育実践・教育研究もいじめ、怠学、自己否定感など Child Problem への対応に「子どもの声を聴く」ことへの関心が高まっており、教師の専門性の重要な要素として位置づけられている。それは、子どもの表現を受け止め理解することを含んだ教育実践の必要性が認識されてきたからである。恵那の教師たちは、早くからこうした認識を獲得し、「生活綴方の精神」という言葉で提起し続けてきた。「ケア」概念の教育実践への適用と「ケアの共同体」として学校づくりを提唱するネル・ノディングスや、フィンランドでも「子ども理解」を教師集団が共有する実践と研究も進んでいる。また、フランスを中心とするフレネ教育運動は、子ども・若者の自己表現を励まし、それを通じて子ども・若者の自己認識と関係づくりに取り組んでいる。これらもまた、教師たちの協働が教育実践を支える基盤として構想されており、その相互浸透性についての研究は教育実践概念を拡張・富裕化させるうえで重要である。本研究グループは、これら実践・研究の当事者たちとの研究交流を深め、「恵那の教育」との共通点を見出してきたが、双方に共通する言語・概念の形成には至っていないのが現状である。この点でも「恵那の教育」の可能性と、国際的な認知の端緒を開くことが求められている。

2. 研究の目的

(1) 日本の教育実践史のなかで独特の位置を占めてきた「恵那の教育」の生成と展開過程を明らかにする。とりわけ「恵那の教育」の代名詞である生活綴方教育の現代的意義と発展的展開の可能性を明らかにする。さらに1980年代以降、「子どもの声を聴き取る」という「臨床的实践」の萌芽ともいえる実践枠組みを創出してきたことの意義についても検討する

(2) 「恵那の教育」と地域名を冠した事例は、教育実践史上、類を見ない。こうした集団的な教育実践の生成・発展の検討を通じて、教師の協働がもたらす教育実践の質を検討する。

(3) 「恵那の教育」の現代的意義に照応する世界の教育実践・思想を比較することによってその独自性と普遍性とは何かを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 本研究に先立つ課題研究(「戦後恵那の生活綴方教育と石田和男の教育思想に関する総括的研究」課題番号26381034)の成果である『石田和男教育著作集』を2017年に刊行したが、その読み込みと恵那教育研究所に存在する膨大な資料の探査・整理を通じて、恵那の教育の諸特徴、

とりわけ生活綴方教育の現代的意味や教師の集団性を含んだ専門職性の検討を行った。

(2) 上記の研究方法をもとに、現代における生活綴方教育の意義を検討し、生活綴方教育が「子ども理解」という臨床教育学のルーツの一つであるということを確認した。

(3) 生活綴方教育は、恵那の教師たちの集団性の中核となっていた。それは「子どもの自由な表現」を教師たちが協働の学びのなかで読み解くことを通じて、教師の専門性を確保する認識を獲得していったことによる。こうしたことは、フランスにおけるフレネ中等教育実験学校のなかで教師たちの協働によるプログラム開発やフィンランドにおける近年のカリキュラム改革への教師たちの取り組みのなかにも共通してみられるものであったことを海外調査によって確認できた。

4. 研究成果

(1) 『石田和男教育著作集』を2017年に刊行したが、各巻において研究代表者、研究分担者、研究協力者がそれぞれ解説論文を執筆し、石田和男と「恵那の教育」の諸特徴をうきぼりにすることができた。

石田和男教育著作集編集委員会（坂元忠芳、片岡洋子、佐藤隆、佐貫浩、田中孝彦、森田道雄、山沢智樹）（編集）

『石田和男教育著作集（全4巻セット）』単行本、花伝社、査読無 2017年
総ページ数

第1巻『生活綴方教育の出発』全393ページ

第2巻『運動方針の転換』全375ページ

第3巻『子どもをつかむ実践と思想』全414ページ

第4巻『時代と人間教師の探究』全415ページ

また、石田氏が2021年に死去された際に、追悼論文集『石田和男先生の仕事を継承する』を刊行し、研究代表者・分担者が論文を執筆した（佐藤隆「『恵那の教育』と石田和男の『人間としての教師』論」p41-49、佐貫浩「石田和男における『3つのセイ』提起の意味」p49-59、森田道雄「『恵那の教育資料集』と石田『著作集』のあとに」p70-86）。

(2) 研究代表者の佐藤隆は、戦後日本の教育のなかで恵那の生活綴方教育がどのような役割を果たしてきたのかを明らかにした（『私の教育課程づくり』と生活綴方の精神』『著作集第3巻』p391-414）。一方で、今日の教員政策が、教師個人の資質・力量に焦点を当てていることについて、恵那の教師の集団的な専門性の発達への確信を対置する必要性を確認した。また、フランスのフレネ中等教育実験学校は、子ども・若者の自己表現を励まし、それを通じて子ども・若者の自己認識と関係づくりに取り組んでいる。この取り組みを調査・検討した結果、教師たちの協働が教育実践を支える基盤として構想されており、その相互浸透性についての研究は教育実践概念を拡張・富裕化させるうえで重要であることを確認した。

(3) 森田道雄（2018年以降は退職のために研究協力者）は、恵那の教師集団の質的発展の契機となった東濃民教研の発足に焦点を当てて、その意味を明らかにした（『恵那教科研から東濃民教研の結成と『地肌の教育』の展開』『著作集2巻』p354-376）。また、森田による長期間にわたる「恵那の教育」研究のまとめとして『恵那教育70年史研究』全4巻を刊行した。そこでは、子どもの生活とそこに生まれる表現を重視した生活綴方教育を軸とした集団的教育実践が長期にわたって展開された事例は、日本の教育実践史上ほとんど類を見ないことを明らかにした。

(4) 佐貫浩は、本研究課題のなかでは、戦後の「恵那の教育」の担い手の一人であった石田和男の著述・発言の収集を中心的に担い、石田が恵那の教師集団形成にどう貢献したのかを検討した。その成果は、著作集解説論文（『勤評反対闘争と石田和男の教育認識、民主主義観の発展』『著作集第2巻』p332-353、単著『恵那の戦後教育運動と現代—「石田和男教育著作集」を読む』）などである。これらを通じて、石田が1950年代から60年代にかけては組合運動のリーダーとして「転換の方針」と名づけた運動方針の下で恵那の教師達に「自由論議」の重要性を説き、また70年代以降は、生活綴方教育の発展のための理論的問題提起を行い、それを恵那の教師達の「共同の事業」として進める必要性を訴えたことを明らかにした。

(5) 片岡洋子は、石田をはじめとする恵那の教師集団が戦後初期から取り組んだ生活綴方教育の同時代的意味を明らかにした（『生活綴方教育の出発』『著作集第1巻』p328-361）。また、生活綴方研究を土台にした教育実践研究や、現代における子どもの人間関係の不自由さに言及しつつ、これらが諸外国の教育実践において子ども表現と自由がどのように保障されているのかをフレネ中等教育実験学校の実践にかかわらせながら明らかにしようとした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計45件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤隆	4. 巻 2021年6月号
2. 論文標題 「評価」に管理される教育の時代	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤隆	4. 巻 2021年版
2. 論文標題 GIGAスクールで学校はどう変わるのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『子ども白書』	6. 最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 2021年5月
2. 論文標題 教育における民主主義を考える（下） 新自由主義の支配を打ち破る教育の役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 第21号
2. 論文標題 コロナパンデミックと新自由主義 危機の中から教育の未来を切り拓くために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『民主教育研究所年報』	6. 最初と最後の頁 171-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 2022年2月号
2. 論文標題 戦後教育学と「教育的価値論」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 2021年7月号
2. 論文標題 「自己の育ち」と子ども理解	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 69 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 2021年8月号
2. 論文標題 寮美千子さんの言葉の翼	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 25 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 隆	4. 巻 2020年11月号
2. 論文標題 コロナが照射する日本の教育課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 6 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 隆	4. 巻 No.94
2. 論文標題 GIGAスクール構想と「主体的・対話的で深い学び」のゆくえ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 さいたまの教育と文化	6. 最初と最後の頁 25 - 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 隆	4. 巻 2021年2月号
2. 論文標題 「令和の日本型学校教育」とはなにか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 96 - 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 隆	4. 巻 2021年4月号
2. 論文標題 「個別最適な学び」の何が問題か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 135-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 2020年9月号
2. 論文標題 子どもの学びの本質に立ち帰る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 60-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貫浩	4. 巻 21vol14
2. 論文標題 「方法としての政治」と表現、民主主義の回復	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民主主義教育	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貫浩	4. 巻 20号
2. 論文標題 道徳的価値を教育はどう扱うべきか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民主教育研究所年報	6. 最初と最後の頁 2-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貫浩	4. 巻 109号
2. 論文標題 コロナパンデミックと新自由主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間と教育	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貫浩	4. 巻 2021年2月号
2. 論文標題 教育における民主主義の探究(上) 個を切り拓く方法として民主主義を捉える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 892号(5月号)
2. 論文標題 校内フリースクール 可能性と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 2020年11月号
2. 論文標題 つながり、まなびあうためのオンライン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 2021年1月号
2. 論文標題 現代における教育実践記録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 69-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤隆	4. 巻 888
2. 論文標題 専門職の誇りと自覚のありか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 59~66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 105
2. 論文標題 「『知識基盤社会』と教養の構造 - 大学・公教育を貫く知の構造の転換を」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人間と教育』2020年春号	6. 最初と最後の頁 76 - 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 545
2. 論文標題 押しつけ、したがわせ、競争させる教育の仕組み - 表現と民主主義をこどもの中に立ち上げる対抗実践を	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法と民主主義	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 45
2. 論文標題 道徳の教科化による公教育の質の転換	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季論 2 1	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 885
2. 論文標題 自己を形づくることを支える 保育園、学童保育、少年刑務所で	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 33-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 884
2. 論文標題 いろいろな性を知り、自分をみつめる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 96-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤隆	4. 巻 6月号
2. 論文標題 教師の仕事を梓づける文科省流資質能力論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤隆	4. 巻 9月号
2. 論文標題 教育改革の新段階 追いつめられる教師たち	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 68-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 第25号
2. 論文標題 日本の教育改革の全体像と特質 現代把握と新自由主義教育政策の本質把握を巡って	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育政策学会年報	6. 最初と最後の頁 30 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 8月号
2. 論文標題 学力と人格と教育実践 子どもの変革的主体性性を支える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育』	6. 最初と最後の頁 5 - 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 11月号
2. 論文標題 学力と人格を結びつける	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊 クレスコ	6. 最初と最後の頁 16 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 100
2. 論文標題 学力と人格をどう結びつけるか 新学習指導要領の『資質・能力』規定と学力論の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊 人間と教育	6. 最初と最後の頁 56 - 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 1月号
2. 論文標題 新自由主義空間における表現の意味－書くことにおけるプライバシーと個の尊厳	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 43 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 864号
2. 論文標題 恵那の生活綴方教育への歩み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 作文と教育	6. 最初と最後の頁 52 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 865号
2. 論文標題 恵那の生活綴方教育への歩み2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 作文と教育	6. 最初と最後の頁 52 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 866号
2. 論文標題 恵那の生活綴方教育への歩み3	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 作文と教育	6. 最初と最後の頁 52 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 867号
2. 論文標題 恵那の生活綴方教育への歩み4	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 作文と教育	6. 最初と最後の頁 52 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 876号
2. 論文標題 書きことばと感情表現 - 生活実感を伝えあう	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 36-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤隆	4. 巻 第3巻
2. 論文標題 「私の教育課程づくり」と生活綴方の精神	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石田和男教育著作集 子どもをつかむ実践と思想	6. 最初と最後の頁 391 ~ 414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤隆	4. 巻 第4集
2. 論文標題 新学習指導要領と教育課程づくり	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『小学校学習指導論』	6. 最初と最後の頁 10 ~ 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貴浩	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 勤評反対闘争と石田和男の教育認識、民主主義観の発展	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石田和男教育著作集 運動方針の転換	6. 最初と最後の頁 332 ~ 353
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貫浩	4. 巻 第4巻
2. 論文標題 戦後日本の教育学と石田和男の教育運動論、教育実践論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石田和男教育著作集	6. 最初と最後の頁 388 ~ 409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐貫浩	4. 巻 96号
2. 論文標題 学力概念の再把握 「学力の権力的規定」批判学力論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『人間と教育』	6. 最初と最後の頁 20 ~ 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田道雄	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 恵那教科研から東濃民教研の結成と「地肌の教育」の展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石田和男教育著作集	6. 最初と最後の頁 354 ~ 376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 864号
2. 論文標題 特別活動のこれまでとこれから	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 59 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡洋子	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 生活綴方教育の出発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石田和男教育著作集	6. 最初と最後の頁 328 ~ 361
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐貫浩
2. 発表標題 知識基盤社会論とロボット論
3. 学会等名 総合人間学会自由研究発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐貫浩
2. 発表標題 主権者教育の原理的考察 新自由主義と政治教育、道徳教育の関係を考える フーコーとブラウンに依拠しつつ
3. 学会等名 日本教育法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片岡洋子
2. 発表標題 "岐阜県恵那での生活綴方教育の始まり"
3. 学会等名 全国作文教育研究大会 九州・福岡大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 佐貫浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 256
3. 書名 恵那の戦後教育運動と現代－『石田和男教育著作集』を読む	

1. 著者名 佐貫浩	4. 発行年 2020年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 268
3. 書名 「知識基盤社会」論批判	

1. 著者名 佐貫浩	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 255
3. 書名 学力・人格と教育実践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森田 道雄 (Morita Michio) (40109236)	放送大学・福島学習センター・特任教授 (32508)	2018年4月まで

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐貫 浩 (Sanuki Hiroshi) (60162517)	法政大学・その他部局等・名誉教授 (32675)	
研究分担者	片岡 洋子 (Kataoka Yoko) (80226018)	千葉大学・教育学部・教授 (12501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森田 道雄 (Morita Michio)		2018年4月から

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関